

## 活動状況報告書（1月分）

文化芸術コース 田坂 佳那

1月は、今学期の終わりの月だったので、大学ではさまざまなクラスのクラスコンサートが行われました。私は、今期ヴァイオリンの学生さんと一緒に受講していた「ピアノ室内楽」の授業でクラスコンサートに出演することができ、モーツァルトのヴァイオリンソナタを演奏しました。今期この授業でご指導いただいた先生からは、モーツァルトの思想やこの時代の演奏法、室内楽の演奏におけるたくさんの事柄を具体的に教えていただくことができました。コンサートに向けて学んだことを意識して準備し、成果を実感するとともに反省点を見つけることができました。ウィーン市立音楽芸術大学のコンサート等を配信するYouTubeアカウント“Streaming MUK. podium”というものがあり、そこでは大学でのクラスコンサート(全てではありませんが担当教授等がYouTube配信を準備した場合)やマスタークラスなどの催し物が配信され、アーカイブも残っています。例えば学校を志望していて情報が欲しい方や、学生の演奏に興味がある方は誰でもチェックすることができます。今回私たちが出演したクラスコンサートも、1月17日に配信されたものが MUK. stream. kammermusik | Monti というタイトルで残っていて、この日は2台ピアノによる演奏と、ヴァイオリンとピアノによる二重奏が何組か演奏しました。もしご興味がある方は学生たちの演奏を聴きにぜひ覗いてみていただけると幸いです。その他には、授業での期末の提出物であるポートフォリオの作成があり、自分で設定した今期の目標とそれに向けた経過となる取り組み、そして振り返りをまとめて提出しました。ドイツ語で書くことがとても大変でしたが良いトレーニングにもなりました。

授業の他に今月は、打楽器の学生さん達が受験する学外のオーディションに向けた準備のための伴奏を担当させていただき、5人の学生さんたちの練習やレッスンでの伴奏をしました。私はこれまで打楽器の伴奏や共演は試験やコンサートのみしか行ったことがなく、オーディション準備のための伴奏というのは初めての取り組みでした。そのため日本での事情にもあまり詳しくはありませんが、今回伴奏していて感じたのは、学生さん同士が良い演奏のために協力し合っていたことです。同じオーディションを受験する学生さん同士はライバルでもあると思うのですが、教授によるリハーサルではない日にも自分達で本番に向けたトレーニングを設け、受験しない学生さんが審査員役となり本番同様のやり方で演奏をして、演奏後は学生同士でここは良かった、ここはもっとこうの方が良いなどの意見交換をしていたことが非常に印象的でした。

今学期を終えたあと、1月31日はウィーンゆかりの作曲家であるフランツ・シューベルトの誕生日だったので、シューベルトの生家と、その近くにある彼が洗礼を受けたリヒテンタール教会に行きました。ウィーンには作曲家の家が博物館としていくつか存在し、観光で訪れることができます。作曲家について理解を深めたり、その作曲家の当時の姿に想像を膨らませることができたりする展示もあるので、ウィーンを訪れる方には非常におすすめです。

来月は次の学期が開始します。主専攻のレッスン以外はほぼ新しい授業になるので、また新しい取り組みから多くのことを学びたいと思います。

